2024 年 10 月 16 日更新

草の根技術協力（草の根パートナー型）案件概要表

Ⅰ．事業の概要	
1．対象国名	ケニア
2．案件名	ケニア国内のセラピストによる持続可能なリハビリテーション評価治療システム構築プログラム
3. 事業の背景と必要性	近年 HIV/AIDS や Malaria など感染症による死亡者数が減少する反面、脳血管疾患や心疾患、がんなどの生活習慣が引き金となって起こる疾患が増えている。今後、脳血管疾患などにより後遺症を呈す患者の増加が予想され、ケニア保健省も生活習慣病予防に着手している。また脳卒中ガイドラインを作成し、治療方針や内容を盛り込んでいるが、日本のようにリハビリテーションの記述は存在しない。更に疾患や障害の程度、評価、治療経過など患者データもなく、ケニヤッタ国立病院のセラピストもリハビリテーションガイドラインの必要性を感じているが、正確な臨床データが不足しておりガイドライン作成を円滑に進められるかが危惧される。データ収集には正確な評価技術をセラピストに指導する必要があり、先ずは疾患に応じて標準化された評価用紙の作成が必須である。
4．プロジェクト目標	標準化された疾患別評価やリハビリテーション実施計画による適切なリハビリテーションがケニヤッタ国立病院に導入され、ケニア国内のレファラル病院に普及する仕組みが整う。
5．対象地域	ケニア共和国ナイロビ、キスム、モンバサ
6．受益者層 （ターゲットグループ）	1．直接的 ①ケニヤッタ国立病院（KNH）救急外来、一般外来及び病棟セラピスト：計 25 名②ケニア国内（レファラル病院、PT・OT 協会）セラピスト：計 60 名 2．間接的　①月間延べ 2,200 名のケニヤッタ国立病院へ訪れる患者 ②技術移転研修会を修了したケニア国内のセラピスト 60 名の担当患者
7. 生み出すべきアウトプット及び活動	<アウトプット> 1．標準化された疾患別評価を用いて患者へ適切な評価ができる。 2. 疾患に応じた治療プログラムを立案し、リハビリテーション実施計画書にて患者へ説明し、リハビリテーションを実施できる。 3．ケニヤッタ国立病院でケーススタディを開催し、科学的根拠（Evidence Based Medicine（EBM））に則ったリハビリテーションを広く周知し、技術習得者数を増やす。 4. レファラル病院のセラピストを対象に技術移転研修会を開催し、標準化された疾患別評価やリハビリテーション実施計画書を普及する仕組みが整う。 5．日本国内で一般市民及び医療福祉保健関係者の国際協力への理解が進む。 <活動> 1．コアセラピストと共同で評価用紙を作成、疾患別にまとめ、研修会実施と振返り。 2．リハビリテーション実施計画書への助言と指導、リハビリテーションの実践。

	3. 本邦研修の実施と現地病院内のセラピストを対象にケーススタディの開催。 4. 実施計画書の修正と技術移転研修会開催マニュアルの作成と研修会の実施。 5. 日本国内における国際協力への理解促進のための広報及び報告会等の開催。
8. 実施期間	（西暦）2024 年　10 月～　　2027 年　　10 月（　3 年　0 ヵ月）
9. 事業費概算額	97,600千円
10. 相手国側実施機関（カウンターパート）	ケニヤッタ国立病院（カウンターパート）　Public hospital: Kenyatta National Hospital NGO: Dream World Healthcare Programme（現地設立法人） Limited Company: Grand Forest Japan Hospital（現地設立法人）
Ⅱ. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	一般社団法人共生の会
2. 主な活動内容	ケニア：ケニア共和国に於ける医療、福祉環境の改善を支援する事業 日本：障害福祉サービス事業、障害児通所サービス事業、介護サービス事業